

はじめに

私達の目の前の瀬戸内海は新渡戸稲造が「世界の宝石」と絶賛し、また、日本初の国立公園として指定された地域でもあります。瀬戸内圏は古くから海上交通の要衝の地であり、日本文化の源ともいえます。香川大学は、こうした瀬戸内圏の中核都市として発展してきた四国の高松にあって、地域の「知の総合拠点」の形成を使命としています。

本学では古くから、瀬戸内海の赤潮研究、ため池の研究、産業廃棄物対策、遠隔医療などの優れた地域に根ざした研究が続けられてきました。そこで、瀬戸内圏の諸課題を解決するべく調査研究を行うとともに、地域の財産である瀬戸内圏が育んできたその風土や豊かな環境を保全し、継承させ、発展させるために、「瀬戸内圏研究センター」が平成 21 年 3 月 1 日に設立されました。

当センターは瀬戸内圏研究プロジェクト（海グループ：干潟を含めた浅海域の生態系研究など、文化・観光・歴史グループ：瀬戸内圏の地域文化の発見と観光資源の創造など、医療グループ：瀬戸内圏における遠隔医療システム（K-MIX+）や生涯健康カルテ（EHR）ネットワーク構想など）の研究推進支援、行政や企業等との協議会および活動団体や地域住民等の意見からの新たな課題の発掘、それらを反映させるための施策の検討、セミナーやシンポジウム等による研究成果の公開、行政や企業等との受託研究や共同研究の推進、瀬戸内圏研究に関する情報の収集とデータベース化ならびにそれらの発信などを遂行し、地域への貢献を第一の目標に掲げて事業を展開しています。

本報告書では、平成 28-29 年度のセンターの研究成果と活動について報告いたします。今後とも瀬戸内圏研究センターへの暖かい御支援をよろしくお願いいたします。